

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更									
フリガナ設置者	ガッコウセイゲン カハラガクエン 学校法人 永原学園									
フリガナ大学の名称	ニシキョウダイガクイン 西九州大学大学院（Graduate School of Nishikyushu University）									
大学の位置	佐賀県神埼市神埼町尾崎4490-9									
大学の目的	大学院は、西九州大学の建学の精神に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、社会に貢献し、文化の進展と健康・福祉の向上に寄与する人材を育成することを目的とする。									
新設学部等の目的	現代社会における心の相談・支援のための高い倫理観を有し、臨床心理学の精深な学識に基づいた豊かな人間理解力を身につけるとともに、それを活かした臨床実践ができる高度専門職業人、および次世代の指導者・教育者を養成する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部等】 子ども学部 心理カウンセリング学科 14条特例の実施	
	生活支援科学研究科 〔Graduate school of Human Care Sciences〕 臨床心理学専攻 〔Master's Course in Degree Program in Clinical Psychology〕 博士前期課程 〔Master Course of Clinical Psychology〕 計	年	人	年次人	人	修士 (臨床心理学) Master of Clinical Psychology	令和6年4月 第1年次	佐賀キャンパス 佐賀県佐賀市神園 3丁目18番15号		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		令和6年4月開設 生活支援科学研究科臨床心理学専攻（博士後期課程）（2）（令和5年9月認可） 生活支援科学研究科スポーツ科学専攻（修士課程）（2）（令和5年9月認可） 生活支援科学研究科保健医療学専攻（博士後期課程）（2）（令和5年9月認可） デジタル社会共創学環（60）（令和5年5月届出）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
	生活支援科学研究科 臨床心理学専攻博士前期課程	講義	演習	実験・実習		計	16 単位			
の教員組織概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	修士課程を博士前期課程に課程変更
	新設	生活支援科学研究科 臨床心理学専攻 (博士前期課程)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	18 (18)	
		計	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	-	

教 員 組 織 の 概 要	既 設	生活支援科学研究科 リハビリテーション学専攻 (修士課程)	9 (9)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	6 (6)	令和5年9月認可
		生活支援科学研究科 子ども学専攻 (修士課程)	7 (7)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	14 (14)	
		生活支援科学研究科 看護学専攻 (修士課程)	6 (6)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	16 (16)	
		生活支援科学研究科 健康福祉学専攻 (博士前期課程)	9 (9)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	12 (12)	
		生活支援科学研究科 健康福祉学専攻 (博士後期課程)	11 (11)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	3 (3)	
		生活支援科学研究科 栄養学専攻 (博士前期課程)	8 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	5 (5)	
		生活支援科学研究科 栄養学専攻 (博士後期課程)	9 (9)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	6 (6)	
		生活支援科学研究科 スポーツ科学専攻 (修士課程)	5 (5)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	8 (8)	
		生活支援科学研究科 臨床心理学専攻 (博士後期課程)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	6 (6)	
		生活支援科学研究科 保健医療学専攻 (博士後期課程)	11 (11)	9 (9)	4 (4)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	6 (6)	
		計	79 (79)	41 (41)	17 (17)	0 (0)	137 (137)	0 (0)	- (-)	
		合計	83 (83)	44 (44)	17 (17)	0 (0)	144 (144)	0 (0)	- (-)	
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種	専 任	兼 任		計					
	事務職員	50 (50)	0 (0)		50 (50)					
	技術職員	0 (0)	0 (0)		0 (0)					
	図書館専門職員	2 (2)	0 (0)		2 (2)					
	その他の職員	1 (1)	0 (0)		1 (1)					
計	53 (53)	0 (0)		53 (53)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
	校舎敷地	39,878 m ²	14,833 m ²	0 m ²		54,711 m ²				
	運動場用地	18,813 m ²	7,630 m ²	0 m ²		26,443 m ²				
	小計	58,691 m ²	22,463 m ²	0 m ²		81,154 m ²				
	その他	65,243 m ²	3,869 m ²	0 m ²		69,112 m ²				
合計	123,934 m ²	26,332 m ²	0 m ²		150,266 m ²					
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計					
	29,227 m ² (29,227 m ²)	19,682 m ² (19,682 m ²)	0 m ² (0 m ²)		48,909 m ² (48,909 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設				
	50 室	68 室	44 室	4 室 (補助職員 3人)		1 室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数						
	生活支援科学研究科臨床心理学専攻博士前期課程			7 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	生活支援科学研究科 臨床心理学専攻博士前期 課程	13,652 [650] (13,252 [618])	39 [0] (39 [0])	3 [2] (3 [2])	860 (860)	1,217 (1,217)	0 (0)			
	計	13,652 [650] (13,252 [618])	39 [0] (39 [0])	3 [2] (3 [2])	860 (860)	1,217 (1,217)	0 (0)			
図 書 館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数						
	1,960 m ²	283 席		204,000 冊						
体 育 館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要								
	3,267 m ²	トレーニングセンター 242m ²	テニスコート 2面	多目的コート 1面	弓道場 89m ²					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		教員1人当り研究費等		75千円	75千円					
		共同研究費等		0千円	0千円					
		図書購入費	800千円	500千円	500千円					
	設備購入費	0千円	0千円	0千円						
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
810千円	610千円	一千円	一千円	一千円	一千円					
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、雑収入等							

既設大学等の状況	大学の名称	西九州大学							所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	健康栄養学部 健康栄養学科	4	120	—	480	学士 (健康栄養学)	0.75 0.75	平成 26年度	神埼キャンパス 佐賀県神埼市 神埼町尾崎 4490番地9	
	健康福祉学部 社会福祉学科	4	80	10	340	学士 (社会福祉学)	0.67 0.50	昭和 49年度		
	スポーツ健康福祉学科	4	50	—	200	学士 (スポーツ健康福祉学)	0.95	平成 26年度		
	リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻	4	40	—	160	学士 (理学療法学)	0.84 1.15	平成 19年度	佐賀キャンパス 佐賀県佐賀市神園 3丁目18番15号	
	作業療法専攻	4	40	—	160	学士 (作業療法学)	0.54	平成 19年度		
	子ども学部 子ども学科	4	80	10	340	学士 (子ども学)	1.10 1.06	平成 21年度		
	心理カウンセリング学科	4	40	—	160	学士 (臨床心理学)	1.18	平成 26年度	小城キャンパス 佐賀県小城市小城 町176番地27	
	看護学部 看護学科	4	90	—	360	学士 (看護学)	1.08 1.08	平成 30年度		
	大学院 生活支援科学研究科 栄養学専攻 博士前期課程	2	2	—	4	修士 (栄養学)	1.07 0.25	平成 26年度		
	栄養学専攻 博士後期課程	3	2	—	4	博士 (栄養学)	0.75	令和 4年度	神埼キャンパス 佐賀県神埼市神園 町尾崎4490番地9	
	健康福祉学専攻 博士前期課程	2	5	—	10	修士 (生活支援学)	1.00	平成 27年度		
	健康福祉学専攻 博士後期課程	3	3	—	9	博士 (生活支援学)	0.77	平成 27年度		
	リハビリテーション学専攻	2	3	—	6	修士 (リハビリテーション学)	1.33	平成 26年度	佐賀キャンパス 佐賀県佐賀市神園 3丁目18番15号	
	臨床心理学専攻	2	5	—	10	修士 (臨床心理学)	1.80	平成 26年度		
	子ども学専攻	2	3	—	6	修士 (子ども学)	0.16	平成 27年度		
	看護学専攻	2	5	—	10	修士 (看護学)	0.60	令和 4年度	小城キャンパス 佐賀県小城市小城町 176番地27	
	既設大学等の状況	大学の名称	西九州大学短期大学部							所在地
		学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	
	既設大学等の状況	地域生活支援学科	2	100	—	200	短期大学士 (地域生活支援学)	0.74	平成29年度	佐賀キャンパス 佐賀県佐賀市神園 3丁目18番15号
		幼児保育学科	2	90	—	180	短期大学士 (保育学)	0.78	昭和40年度	
附属施設の概要		該当なし								

教 育 課 程 等 の 概 要															
（ 生活支援科学研究科 臨床心理学専攻博士前期課程 ）															
分野	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通	生活支援科学特論	1前	2			○			1					兼6	オムニバス
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0	兼6	—
研究支援	日本語による研究支援（基礎）	1前		1		○								兼1	留学生科目
	日本語による研究支援（応用）	1後		1		○								兼1	留学生科目
	小計（2科目）	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼1	—
基礎分野	臨床心理学特論Ⅰ	1前	2			○				1					
	臨床心理学特論Ⅱ	1後	2			○			1						
	臨床心理面接特論Ⅰ （心理支援に関する理論と実践）	2前	2			○				1					
	臨床心理面接特論Ⅱ	2後	2			○			1						
	臨床心理査定演習Ⅰ （心理的アセスメントに関する理論と実践）	1前	2				○			1					
	臨床心理査定演習Ⅱ	1後	2				○			1					
	臨床心理基礎実習	1通	2					○		2					共同
	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅰ）	2通		1					4	1					共同
	臨床心理実習Ⅱ	2通		1					1	1					共同
小計（9科目）	—	14	2	0	—			4	3	0	0	0	0	—	
展開分野	心理学研究法特論	1・2前		2		○			1						
	臨床心理学研究法特論	1・2後		2		○								兼1	集中
	教育心理学特論	1・2後		2		○								兼1	集中・メディア
	発達心理学特論	1・2後		2		○								兼1	集中
	犯罪心理学特論 （司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	1・2後		2		○								兼1	集中
	臨床家族心理学特論 （家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	1・2後		2		○								兼1	
	精神医学特論 （保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1・2前		2		○								兼1	
	老年心理学特論	1・2前		2		○			1						
	障害児（者）心理学特論 （福祉分野に関する理論と支援の展開）	1・2後		2		○								兼1	
	投映法特論	1・2前		2		○				1					
	心理療法特論	1・2前		2		○								兼1	

分野	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
展開分野	学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	1・2前		2		○				1					兼1 集中 兼1 集中 兼1 共同 集中 共同 集中
	臨床心理地域援助特論	1・2前		2		○									
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1・2前		2		○									
	心の健康教育に関する理論と実践	1・2前		2		○									
	心理実践実習Ⅱ	1～2通		5				○	2	2					
	心理実践実習Ⅲ	1～2通		4				○	2	2					
小計 (17科目)		—	0	39	0	—			4	3	0	0	0	兼11	—
研究演習	特別研究	1～2通	8				○		3	2					
	小計 (1科目)	—	8	0	0	—			3	2	0	0	0	0	—
合計 (30科目)		—	24	43	0	—			4	3	0	0	0	兼18	—
学位又は称号		修士 (臨床心理学)			学位又は専攻の分野			文学関係							
修了要件及び履修方法							授業期間等								
必修科目24単位、選択科目より12単位以上、合計36単位以上修得し、修士論文の審査及び試験に合格すること。							1学年の学期区分			2学期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

教 育 課 程 等 の 概 要														
（子ども学部 心理カウンセリング学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
キャリア形成	あすなろう（初年次教育含）	1通	2					○		2	2	1	1	
	SDGs入門	1前	2			○					1			兼8 オムニバス
	関連職種連携入門	1前		2		○					1			兼12 オムニバス
人間・文化・科学 共通教育科目	心理学入門	1・2後		2		○								兼1
	現代社会と倫理	1・2前		2		○								兼1
	人間論と現代思想	1・2後		2		○								兼1
	文学と言語	1・2前		2		○								兼1
	生涯学習論	1・2前		2		○								兼1
	肥前の歴史と文化	1・2後		2		○								兼1
	脳と認知科学	1・2後		2		○								兼1
	法学	1・2前		2		○								兼1
	日本国憲法	1・2後		2		○								兼1
	グローバル化と異文化共生	1・2前		2		○								兼1
	変わりゆく国際社会を生きる	1・2後		2		○								兼1
	多文化社会学	1・2前		2		○								兼1
	くらしと経済	1・2前		2		○								兼1
	ジェンダー論	1・2後		2		○								兼1
	生命のしくみ	1・2前		2		○								兼1
	生物と環境	1・2後		2		○								兼1
	身近な生活の化学	1・2前		2		○								兼1
	統計学の基礎	1・2前		2		○								兼1
	身近な世界の物理学	1・2前		2		○								兼1
	地球環境科学	1・2後		2		○								兼1
健康スポーツ科学	1・2後		2		○								兼1	
フィットネス・スポーツ	1前		1				○						兼1	
ウェルネス・スポーツ	1後		1				○						兼1	
外国語によるコミュニケーション理解	英語コミュニケーションⅠ	1前	1					○						兼1
	英語コミュニケーションⅡ	1後	1					○						兼1
	SDGs英語	2後		1				○						兼1
	World Issues（世界事情）	1・2前		2		○								兼7 オムニバス
	語学研修	1・2・3・4通		1					○					兼1
	中国語	1前		1				○						兼1
	韓国語	1後		1				○						兼1
	日本語初級	1前		1				○						兼1
日本語中級	1後		1				○						兼1	
日本語上級	1後		1				○						兼1	
データサイエンスの理解	データサイエンス入門	1前	2			○								兼9 オムニバス
	データサイエンス演習	1後	1					○		2	2	1	1	
小計（38科目）		—	9	55	0	—			2	2	1	1	0	兼57

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	学部基幹科目	子ども学総論	1前	2			○			1			1		兼4	
	学科基幹科目	心理学概論Ⅰ	1前	2			○				1					兼1
		心理学概論Ⅱ	1後	2			○									
		子ども家庭福祉	1後	2			○									
		心理カウンセリング概論	2前	2			○			1						
			臨床心理学概論	2前	2			○		1						
			小計（6科目）	—	12	0	0	—		3	0	0	0	0	0	兼5
	専門基礎科目	心理学基礎科目	心理学研究法	2前		2		○			1					兼1
			心理学実験Ⅰ	2前	2				○		1					
			心理学実験Ⅱ	2後		2			○		1	1				
			心理学統計法	3後		2		○								
			心理的アセスメントⅠ	3前	2			○				1				
		心理的アセスメントⅡ	3後		2		○							兼1		
専門基礎科目	心理支援基礎科目	カウンセリング基礎演習	1通	1				○		1		1	1		兼1	
		カウンセリング実践演習	2通	2				○		1		1	1			
		公認心理師の職責	3後			2		○								
		小計（9科目）	—	7	10	0	—		2	2	0	1	0	兼3		
専門基礎科目	発達関連科目	命の尊厳	1前			2		○							兼1	
		現代社会と家族機能	1後			2		○							兼1	
		発達心理学Ⅰ	1前			2		○				1			兼1	
		発達心理学Ⅱ	1後			2		○				4				
		乳幼児心理学	1前			2		○								
		児童臨床心理学	1後		2			○		1			1			
		思春期・青年期心理臨床	2前			2		○					1			
		基礎関連科目・医学	人体の構造と機能及び疾病Ⅰ	1前			2		○							兼1
	人体の構造と機能及び疾病Ⅱ		1後			2		○							兼1	
	知覚・認知心理学		2前			2		○							兼1	
	学習・言語心理学		2後			2		○							兼1	
	神経・生理心理学		2後			2		○							兼1	
	健康・医療心理学		3前			2		○							兼1	
	精神疾患とその治療Ⅰ		3前			2		○							兼1	
	精神疾患とその治療Ⅱ	3後			2		○							兼1		
関連社会心理学・産学	社会・集団・家族心理学Ⅰ（社会・集団心理学）	3前			2		○							兼1		
	社会・集団・家族心理学Ⅱ（家族心理学）	3後			2		○			1				兼1		
	産業・組織心理学	3後			2		○									
	コミュニティ心理学	4前			2		○					1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	地域協働関連科目	教育・学校心理学	3前	2		○				1						
		障害者・障害児心理学	3前	2		○				1						
		司法・犯罪心理学	3前		2		○									兼1
		福祉心理学	3後		2		○				1					
		関係行政論	3後		2		○									兼1
		こころと宗教(宗教学概論)	2後		2		○									兼1
		人権論	2後		2		○									兼1
		死生学	4前		2		○									兼1
		学校ソーシャルワーク	4前		2		○									兼1
		レクリエーション支援論	3前		2		○									兼1
		レクリエーション支援演習	3後		2			○								兼2
		子ども家庭支援論	4後		2		○									兼1
		子どもの支援Ⅰ(基礎・実習)	1・2・3・4通		2				○							兼5
小計(32科目)		—	4	60	0	—			2	3	1	1	0	兼23		
専門教育科目	臨床応用心理学関連科目	心理学的支援法	2後		2		○			1						
		遊戯療法	2後		2		○			1						
		芸術療法Ⅰ(基礎理論と箱庭療法・カラージュ療法)	3前		2		○				1					
		芸術療法Ⅱ(心理劇の理論と実際)	3前		1			○			1					
		芸術療法Ⅲ(芸術療法の実践)	3後		2			○			1	1				
		臨床動作法の理論と実践	3後		2		○				1					
		認知行動療法	4前		2		○									兼1
		感情・人格心理学	4前		2		○					1				
		精神分析学	4後		2		○									兼1
		子どものストレスマネジメント論	4後		2		○						1			
		心理演習	3通		2				○		3					
	心理学実践領域実習	心理実習	4通		2				○	2	1	1				
	心理学文献講読科目	心理学文献講読Ⅰ	4前		2		○			1						
		心理学文献講読Ⅱ	4後		2		○				1					
	カルチャーと心理関連科目	子どもの文化	2後		2		○								兼1	
		カルチャーと心	3後		1		○				1					
		アニメ・映画・絵本と心理学	3後		1		○									
	キャリア教育科目	暮らしに潜む畏	1前		1		○				1					
		キャリアアップ講座Ⅰ	1通		1			○			1		1			兼1
		キャリアアップ講座Ⅱ	2通		1			○			1		1			
		キャリアアップ講座Ⅲ	3通		1			○			1					
	小計(22科目)	キャリアアップ講座Ⅳ	4通		1			○			1					
小計(22科目)		—	0	36	0	—			4	2	1	1		兼4		
ゼミナール		セルフマネジメントゼミナールⅠ	2前	1				○			3	1	1	1		
		セルフマネジメントゼミナールⅡ	2後	1				○			3	1	1	1		
	心理専門ゼミナール	3通	2				○			3	2					
卒業研究	卒業研究	4通	4				○		4	2						
小計(4科目)		—	8	0	0	—			4	2	0	1	0	兼0		
合計(112科目)			—	40	161	0	—			4	3	1	1	0	兼84	
学位又は称号		学士(臨床心理学)		学位又は学科の分野			文学関係、教育学・保育学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
卒業単位124単位以上。共通教育科目必修9単位、選択科目より8単位以上修得。専門教育科目必修31単位、選択科目より76単位以上修得。(履修科目の登録の上限:46単位(年間))						1学年の学期区分			2学期							
						1学期の授業期間			15週							
						1時限の授業時間			90分							

授 業 科 目 の 概 要			
（生活支援科学研究科 臨床心理学専攻博士前期課程）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通	生活支援科学特論	<p>（概要）</p> <p>人びとの生活に対する支援を適切に行うには、生活の機能や領域、それらを研究、支援の対象とする諸科学のありようについて関心を持ち、学修する姿勢が必要とされる。本講義は、研究科における研究教育の基本、前提を学修し、栄養学、臨床心理学、リハビリテーション学、子ども学、健康福祉学、看護学といった各専攻領域の議論に入る準備を行うことを目的とする。地域における人びとの生活の機能や領域、生活支援についての理論や方策、各専攻領域における支援内容について理解を深め、生活支援科学がめざすものについて説明できるようになること、生活支援を学ぶために不可欠な研究倫理を理解することを狙いとする。各専攻の教員からの講義の後に、講義担当者全員を交え、受講院生からレポートの発表と、地域における生活支援にむけた総合的視点から議論を行い、生活支援の方策について考察を深め、学修成果を確実なものとする。</p> <p>（オムニバス方式/全15回：単独講義14回、担当者全員での講義1回）</p> <p>（担当者全員での講義1回）</p> <p>地域における生活支援科学の視点と概要について講じる。人々が地域社会のなかで、より健康的で自立した生活を確保し、維持することをめざす支援のあり方について、多角的な視野から考察することを促す。</p> <p>（10. 横尾 美智代/単独講義2回、担当者全員での講義1回）</p> <p>研究倫理についての理解を深めるための講義を行うとともに、具体的な研究計画に即して、倫理的な配慮の必要性を考察する。</p> <p>（8. 井本浩之/単独講義2回、担当者全員での講義1回）</p> <p>生活支援を展開する地域社会と大学との関係性について講じる。大学の役割が「狭義の人材育成にとどまるのではなく、地域社会への実効性のあるかかわりにあること」を高等教育改革行政の観点からとらえるとともに、具体的な事業展開例を紹介していく。グループワークでの意見交換も行う。</p> <p>（9. 安田みどり/単独講義2回、担当者全員での講義1回）</p> <p>生活支援における食・栄養の位置と役割、人間栄養学と生活の視点からみた食・栄養の重要性を講じる。食・栄養が健康支援と密接にかかわっていること、生活において食が重要な要素を占めていることへの理解を深める。</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通	生活支援科学特論	<p>(11. 田中 麻里/単独講義2回、担当者全員での講義1回) 生活支援における子どものニーズと発達、子育て家庭における家族関係と子どもの育ちのあり方を講じる。現代の子どもを取り巻く環境が、少子化、家族の変容、情報化やデジタル化の進展により急速に変化している現実を踏まえ、子ども学の観点から子どもと家族支援のあり方を考える。</p> <p>(3. 安藤 満代/単独講義2回、担当者全員での講義1回) 生活支援におけるメンタルヘルスの重要性を、健康心理学や医療心理学の視点から紹介し、ライフサイクルから見たメンタルヘルスの課題と援助について講じる。その上で臨床心理学の視点から、メンタルヘルスについて具体的事例を交えて理解を促す。</p> <p>(12. 大川 裕行/単独講義2回、担当者全員での講義1回) リハビリテーションの立場から見た人の健康、生活とその障害、生活支援を目指したリハビリテーションについて講じる。リハビリテーションが目指すものは、共生社会の実現であり、そのためのリハビリテーションの支援のあり方、特にパラスポーツの効果について考察する。</p> <p>(13. 黒田 研二/単独講義2回、担当者全員での講義1回) 地域包括ケアシステムの構築の条件、地域包括ケアにおける多職種連携について講じる。とくに看護学の立場から、地域における多機関、多職種連携のあり方や、連携を通じて目指すものが地域共生社会の実現であることを考察する。</p>	オムニバス方式
基礎分野	臨床心理学特論Ⅰ	これから心の相談・支援の専門家をめざす学生にとって土台となる、臨床心理学の学問領域としての歴史的背景、4種の専門性(心理面接、心理査定、臨床心理学的地域援助、調査研究)、人間理解のあり方と援助論、職業倫理について学ぶ。臨床心理学の発展の経緯と専門性の確立過程を理解することは、これからの心理臨床の活動を支える基礎となり、他職種との連携、協力における自らの職業的アイデンティティーにかかわってくる。援助論においては、グループアプローチや非言語的なアプローチをとりあげ、理解を深める。	
	臨床心理学特論Ⅱ	支援を必要とする人(クライアント)に対して、高度専門職業人として、適切な人間理解を行うことができ、「心の相談・支援」に資する知識が身につくことをねらいとする。授業では、臨床心理介入法の基本的な進め方について、テキストを通して学修し、さらにそれらの臨床心理的介入に関する事例の文献講読を通して、実践での応用について理解していく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	公認心理師(臨床心理士)として社会に貢献するうえで、必要不可欠な心理面接技法について概説する。実際に症状があり、医療機関や相談機関へ来談した人、及びその家族に心理的援助やカウンセリングを実施することができる能力を身につける。臨床現場において、広い視野を持ち、豊かな人間観と高い倫理観に基づいた高度専門職業人として行動できるようになる。様々な現場で公認心理師(臨床心理士)として活動するにおいて、心理面接に関する技術は不可欠であり、本授業を学ぶことによって、パーソナリティ障害、抑うつ障害、強迫性障害、パニック障害、発達障害など人々への心理面接及び関係者への援助を実践するために必要な手段と技術を身につける。具体的な目標は、1. 言語を用いた心理療法の技術、2. 言語を用いた心理療法の進め方、3. 言語を用いた心理療法の事例や研究である。	
	臨床心理面接特論Ⅱ	心理臨床実践にのぞむための基礎的な態度の習得を目的とする。とくに、クライアントとセラピストとの意識的、無意識的コミュニケーションについて分析心理学的観点から体験、考察していく。また、インテーク面接の進め方、見立てに必要な情報の集め方について学び、臨床心理相談室への来談事例の実際について理解する。文献、体験学習、事例検討を中心に行う。また、定期的に箱庭療法、コラージュ療法、絵画療法の技法を用いてセラピストとしての基本的態度の習得も行う。	
	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	(概論) 心理査定についての理解を深め、心理臨床実践活動において十分に活用できるようになることを目的とする。まず初めに、心理査定に関しての倫理の問題も加えながら説明を行う。次に、臨床心理査定における代表的な心理検査について解説し、それらの検査の実施方法、結果の整理、解釈に基本的な考え方、所見の書き方などに関して受講生同士で演習を行い理解を深める。	
	臨床心理査定演習Ⅱ	(概論) 臨床心理査定演習Ⅰに引き続いて、この演習Ⅱでも人間の心理査定についての理解を深め、それらを心理臨床実践活動において十分に活用できるようになることを目的とする。臨床心理査定のための代表的な検査法について熟知し、検査の実施、結果の整理、結果の解釈、所見の書き方等について、受講生同士で演習し、それらを実際の心理臨床活動に活用できるように専門的知識と技術の習得を図る。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎分野	臨床心理基礎実習	臨床心理実践において必要とされる基礎的知識・技術を学ぶことを目的とする。受講者同士でのロールプレイ、本学臨床心理相談室において教員が行うインテイク面接への陪席、ケースカンファレンスへの参加、などの実習体験により心理面接の実際的、基本的な知識や技術の習得を目指す。任意実習として、福祉・教育、いずれかの領域で実際に利用者と関わることを通して、臨床心理士として必要な基礎的な態度やスキルを身につける。受講生には相談室運営への参加（電話受付の当番等）が義務付けられる。またカンファレンスでは積極的な発言（質問・感想・意見）を求める。学内外の実習機関における参与観察、陪席、実践的活動を行う。	共同
	臨床心理実習Ⅰ （心理実践実習Ⅰ）	1年次の臨床心理基礎実習を踏まえて、質の高い実践能力の養成と臨床心理学の専門性や役割など、広い視野から理解を深めることを目的とし実施する。学内実習施設である臨床心理相談室においては、担当教員の指導のもとに実際の相談ケースを受け持ち、心理査定及び心理相談・援助を行っていく。さらに、学内実習に加えて、医療、教育、福祉領域において学外実習を体験する。また、心理実習で担当したケースについては、ケースカンファレンスでの報告を通してふりかえり臨床体験を深めていく。	共同
	臨床心理実習Ⅱ	臨床心理相談センターでの実習を軸とし倫理規定を遵守すること、スーパーヴィジョンを受けること、ケースカンファレンスの検討機会を持つなど、質の高い実践能力の養成と臨床心理学の専門性や役割など、広い視野から理解を深めることを目的とし実施する。	共同
展開分野	心理学研究法特論	学部時代に主に学修した量的研究法から心理学研究法の全体的理解をさらに一歩進め、本特論では人間社会の有り様に直に触れる質的研究法（エスノグラフィー）の基礎を学ぶと共にそのセンスを磨くことを目的とする。目標は以下である。質的研究の定義やその背景となる科学観を説明することができる。フィールドへの参入における準備の必要性とその留意点について、体験をもとに説明することができる。エスノグラフィーの概要を説明できる。質的データの分析方法を概説できる。思考ツールも参考に、データを視覚的にまとめることができる。	
	臨床心理学研究法特論	臨床心理学における代表的な研究方法である事例研究の進め方を中心に、臨床心理学の研究方法について理解を深める。また、臨床心理学研究における研究倫理に関する知識を身につける。目標としては、1) 事例研究の視点を理解できる。2) 事例研究の手法について、その意義と実施法を理解できる。3) 文献や先行研究の検索、研究論文の書き方について理解できる。4) 臨床研究における倫理的配慮ができる。以上の4点である。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開分野	教育心理学特論	<p>教育心理学で学んだことを基礎としながら、教師は個々の子ども、子ども集団にどのように関わるのが適切かについて学習する。教師の児童生徒理解・社会的勢力・リーダーシップ、心理教育的トレーニングの諸技法、いじめなどの学校教育における病理的な現象についても考察を行う。目標は、次の5点である。1. 教師の児童生徒理解はどのようにあるべきかについて説明できる。2. 教師の社会的勢力の源泉について説明できる。3. 教師の効果的なリーダーシップについて説明できる。4. 心理教育的トレーニングの諸技法（社会的スキル教育など）について説明できる。5. いじめなどの学校教育における病理的な現象についてその機序を説明できる。また、その対処法について案出することができる。</p>	
	発達心理学特論	<p>人の発達に対する進化論的あるいは遺伝学的なアプローチが飛躍的に進展する中、従来の養育環境に関する見方が抜本的に問い直されてきている。しかし、発達の進化的基盤や遺伝的基盤を不当に無視するのではなく、それらを確かに踏まえつつ、発達に対する養育環境の役割を正当に位置づけ得るような理論枠は未だ不在と言わざるを得ない。今回の授業では、アタッチメント理論を始め、現今の発達諸科学の成果に基づきながら、人の（特に社会情緒的側面の）生涯発達における養育環境の役割について改めて考究し、いわゆる「生まれと育ち」の問題に関する新たな統合的理解の枠組みを模索する。また、時に虐待や自閉症などの問題を扱いながら、遺伝と環境の絡み合いの様相をより具体的に捉え、さらにそれに関連して、実証的な発達研究と臨床実践とのあり得べき連携のかたちなどについても考察を試みることにしたい。</p>	
	犯罪心理学特論 （司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	<p>犯罪、非行臨床の基礎となる犯罪心理学について、犯罪非行の発生から更生にいたる一連のプロセスに関する事項を総括的かつ実証的に解説する。内容として、犯罪心理学の課題、犯罪非行者の理解とその方法、犯罪非行の発生機制、各種犯罪非行の特質、犯罪非行者の矯正・保護の技法、犯罪被害者問題などを中心に取り上げる。文献、報道事例、統計資料など多面的な資料を活用し総合的に考察する。又文献学習で相互に発表しあいながら、演習的な学習も取り入れる。</p>	
	臨床家族心理学特論 （家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	<p>人間の成長発達のための家庭及び家族システムの重要性について学習する。次に現代社会における家庭及び家庭機能の諸問題に関して理解を深める。家族システムの心理に関して、夫婦サブシステム、母と子のサブシステム、同胞サブシステム、父と子のサブシステム、祖父母と孫とのサブシステムにおける諸相と課題について理解を深め心理学的援助論や方法について習得をはかる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開分並y	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	様々な精神疾患を診断、治療、対応について、生物学的視点、心理社会的視点から理解し、心理士として必要とされる心理社会的臨床対応について説明ができることを目標とする。精神科臨床でのチーム医療における心理士の役割について理解する。	
	老年心理学特論	高齢期の心理的特性を踏まえた上で、心理的支援のあり方について学ぶことを本講の狙いとする。高齢期は心身の機能低下、社会的役割や人間関係の喪失など種々のものを失っていく過程と考えられてきた。しかし、自己実現を目指す存在として生涯発達の視点で見れば、高齢者は様々な変化を受け入れながら、その状況に適応していくための発達過程を歩んでいるものと捉えられる。本講では、高齢者に対する心理学的理解を深めつつ、自らの老年観を吟味するとともに、高齢者への心理支援の方法について理解を深める。	
	障害児(者)心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	福祉分野に関わる公認心理師の実践について知識を拡充することをねらいとする。特に、心身障害・発達支援領域における心理支援の実践力や研究能力を高めるために、当該分野に係る事例研究論文を読むとともに、討論により内容の理解を深める。授業では、各支援法の概要について紹介した後、受講生がテーマに沿って心身障害児(者)およびその関係者への支援に関する事例研究論文を要約して発表(学生によるプレゼンテーション)し、その内容について議論(ディスカッション)をする。	
	投映法特論	投映法に関して実践的な活用ができるために、基礎から実際に施行するまでの課題を理論とともに体験的に理解することを目的とする。内容は以下のように進める。①投映法の意義について理解する。②TST、LST、SCTなどから理論と実践を結びつける。③風景構成法、バウムテストなどの技法を学び、臨床例について考えることで、精神病理や心理療法との関連を理解する。④ロールシャッハ法について被検者・施行者体験をする。⑤ロールシャッハ法のスコアを学び、自らスコアリングをする。⑥ロールシャッハ法の解釈を学ぶ。⑦臨床例とテストバッテリーについて有機的に学ぶ。	
	心理療法特論	心理実践の中心となる心理療法の理論と技法の習熟を目的とし、心理療法において重要な役割を担う「ことばとイメージ」についての理解を深める。とくに本論では、分析心理学的な視点と理論について解説した後、イメージそのものが治療媒体となる芸術療法などの非言語的治療技法とその基礎理論について学習し理解を深める。そのために、文献を読むだけでなく、自分自身がワークを体験し心理臨床実践技法の習得を図る。文献を用いての学習、各技法の体験学習と討議を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開分野	学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	まず最初に、学校心理臨床の現状について教育相談・生徒指導の視点から概説する。次に、学校心理臨床で行われるカウンセリングや臨床心理援助、スクールカウンセリング事業および支援体制づくりについて、理解を深める。加えて臨床事例や方法論について関連文献を検索、通読、まとめ発表を行い、受講生でディスカッションを行い理解を深める。講義とビデオ学習及び演習形式によって、受講生同士の発表とディスカッションにて学習をすすめる。	
	臨床心理地域援助特論	医学モデルに基づく治療に対するアンチテーゼとして出現したコミュニティ心理学の由来をまず学ぶ。コンサルテーションなどの技法を身につけることで、学校環境や会社や地域社会への介入方法を可能にする。そして障害があっても不自由しない人と環境の関係を作っていくことを目指す。	
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	厚生労働省の「労働者健康状況調査」によると仕事や職業生活に関する強い不安、悩み、ストレスを感じる労働者の割合は6割を超えている現状にある。本授業では働く人の心の健康に関する予防、対応、援助内容について、臨床心理学の視点からの理解とアプローチのあり方について学習を深める。	
	心の健康教育に関する理論と実践	心の健康問題の現状について紹介し、予防的な働きかけの種類および重要性について解説する。集団を対象とした心の健康教育や介入技法を実施できるようになる為に、実践例を紹介し演習を行う。	
	心理実践実習Ⅱ	公認心理師としての職業倫理、法的義務への理解に基づき、心理に関する支援を要するものに関して、コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技術を修得し、対象となる人の理解とニーズの把握、支援計画の作成、チームアプローチ、多職種連携、地域連携の在り方を学外実習を通して学ぶ。	共同
	心理実践実習Ⅲ	臨床心理相談センターにおける電話受付業務の実習、相談センターカンファレンスへの出席を通して、事例の理解や対応に関する知見を深める。同時に、保健医療・教育・福祉・司法・矯正施設への見学実習に行き、施設の概要と各々で行われる心理業務について理解をする。さらに「多職種連携」「地域連携」についても、見学や実習の中で学びを深め、心理専門職として必要な知識理解の深化を図る。	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 演習	特別研究	<p>(概論)</p> <p>修士論文のテーマと内容が臨床心理学に関するものであることとし、1年次の4月に指導教員、9月にテーマを決め活動計画書を作成していく。また、1年次後期(11月)に中間発表会を行い全教員より研究の構成や展開について発表を行い、さらに2年次の6月に第2回の中間発表会において研究内容について報告し助言、指導を受け1月下旬に修士論文提出となる。</p> <p>(1. 岡嶋 一郎)</p> <p>集団心理療法及び障害児の発達支援のほか、子育て、余暇、学校生活、就職などの現実的な社会・集団の場における人の心の動きとその心理支援への志向性をもとに、各自が関心をもつテーマについて、数多くの文献を読み、質的・量的を問わずそのテーマを解明するのに適切な研究計画、倫理的配慮、実験・調査の実際、データ分析、論文執筆について指導する。その際、①研究が人間理解と心理支援に示唆を与えられるものか、②研究が対象者や協力者との良好な関係のもとに進められているか、③誰もが分かるような表現で報告するよう心がけているか、④引用文献の数は十分かの4点を重視する。</p> <p>(2. 西村喜文)</p> <p>心理療法の中でも、非言語的手法を用いた箱庭療法やコラージュ療法、絵画療法などの視覚的表現が見出され心理療法のひとつとして定着してきている。本研究演習では、臨床心理学に関する非言語的支援の知見と実践を基盤に研究を行う。具体的には、箱庭表現、コラージュ表現、絵画表現等の発達的特徴を明確にすることや医療、福祉、教育などの幅広い領域における治療の効果についても研究を行う。非言語的心理療法を科学性の高い技法にするためにも、最新の知見レビュー、実態調査、研究計画の立案と検討、論文構成の吟味等、客観的な枠組みでの修士論文完成を目指す。</p> <p>(3. 安藤 満代)</p> <p>人の発達段階で生じる、生きることや生きがい、死ぬことをめぐる課題に、意識や無意識、芸術療法(描画療法やコラージュ療法)を含めた心理支援についての研究を行っていく。具体的には、就学前の母子を対象としたマインドフルネスヨーガの心理的効果、発達障がいを持った方へのマインドフルネスヨーガの心理的効果、当事者と援助者の視点から見た精神障害者への就労支援、高齢者への回想法の認知やwell-beingへの効果、終末期患者や家族へのナラティブ・アプローチ、遺族へのグリーフケア、などのテーマを中心に研究を行う。それ以外にも学生の興味関心を重視する。研究では、国内、国外の最新の研究を基にして、科学的根拠のある研究を進めていく。さらに臨床心理学と看護や福祉といった他の分野にも関連する研究を含めて、国際的比較研究なども推奨していく。また博士後期課程を目指す学生には、博士後期課程までを視野にいたれた修士課程の研究とする。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 演習	特別研究	<p>(6. 赤川 力)</p> <p>心理的支援をするうえで、対象者の方へのアプローチは欠かせないものである。対象者その人にアプローチを行う場合もあれば、対象者を支援する家族や関係者にアプローチを行う場合もある。いずれの場合も臨床現場では欠かせない心理支援になる。修士論文においては、可能な限り心理支援を要する対象者やその対象者の家族・関係者に臨床心理学的アプローチを通して働きかけることを求めたい。そして、対象者やその家族・関係者への関わりを通して臨床心理学的アプローチを修得し、修士論文にまとめることを目指す。</p> <p>(7. 末次絵里子)</p> <p>これまでの長年の心理臨床経験、ならびに、母子関係、発達障害、心理アセスメント、子どもの描画、保育・教育との連携などを研究テーマとしてきた経験を伝えながら、まずは大学院生の希望するテーマに対して文献研究をすすめる。そして、研究倫理、すなわち、研究対象となる人の人権とかかわりを大切にしながらデータを集め、それを丁寧に分析をすること、そして、協力してくれた人たちに還元できる知見をもった修士論文を完成させることを指導する。</p>	

学校法人永原学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
西九州大学				西九州大学				
健康栄養学部				健康栄養学部				
健康栄養学科	120	-	480	健康栄養学科	120	-	480	
				<u>【30】</u>			<u>【120】</u>	<u>デジタル社会共創学環に係る内数</u>
健康福祉学部				健康福祉学部				
社会福祉学科	80	10	340	社会福祉学科	80	10	340	
				<u>【30】</u>			<u>【120】</u>	<u>デジタル社会共創学環に係る内数</u>
スポーツ健康福祉学科	50	-	200	スポーツ健康福祉学科	50	-	200	
リハビリテーション学部				リハビリテーション学部				
リハビリテーション学科				リハビリテーション学科				
理学療法学専攻	40	-	160	理学療法学専攻	40	-	160	
作業療法学専攻	40	-	160	作業療法学専攻	40	-	160	
子ども学部				子ども学部				
子ども学科	80	10	340	子ども学科	80	10	340	
心理カウンセリング学科	40	-	160	心理カウンセリング学科	40	-	160	
看護学部				看護学部				
看護学科	90	-	360	看護学科	90	-	360	
				<u>デジタル社会共創学環</u>	<u>60</u>		<u>240</u>	<u>学部等連携課程実施基本組織の設置(届出)</u>
(計)	540	20	2,200	(計)	540	20	2,200	
西九州大学大学院				西九州大学大学院				
生活支援科学研究科				生活支援科学研究科				
栄養学専攻(M)	2	-	4	栄養学専攻(M)	2	-	4	
栄養学専攻(D)	2	-	6	栄養学専攻(D)	2	-	6	
健康福祉学専攻(M)	5	-	10	健康福祉学専攻(M)	5	-	10	
健康福祉学専攻(D)	3	-	9	健康福祉学専攻(D)	3	-	9	
臨床心理学専攻(M)	5	-	10	<u>臨床心理学専攻(M)</u>	5	-	10	課程の変更(届出)
				<u>臨床心理学専攻(D)</u>	2	-	6	課程の変更(認可申請)
リハビリテーション学専攻(M)	3	-	6	リハビリテーション学専攻(M)	3	-	6	
子ども学専攻(M)	3	-	6	子ども学専攻(M)	3	-	6	
看護学専攻(M)	5	-	10	看護学専攻(M)	5	-	10	
				<u>スポーツ科学専攻(M)</u>	2	-	4	専攻の設置(認可申請)
				<u>保健医療学専攻(D)</u>	2	-	6	専攻の設置(認可申請)
(計)	28		61	(計)	34		77	
西九州大学短期大学部				西九州大学短期大学部				
地域生活支援学科	100	-	200	地域生活支援学科	100	-	200	
幼児保育学科	90	-	180	幼児保育学科	90	-	180	
(計)	190		380	(計)	190		380	